

Park-PFI 先行導入候補とする公園の選定について

1. 2公園の選定について

以下、2公園を Park-PFI 導入の先行事例とする公園に選定する。

- ・みかも山公園
- ・とちぎわんぱく公園

この2公園は、公園が抱える課題や利用実態に沿った提案があり、かつ提案件数も多くかった。また、県営都市公園の中でも年間をとおして比較的安定的に公園利用者が訪れ、かつ年間利用者数が多い公園である。このため、公募時により多くの民間事業者から、より多様な事業が提案されるものと考えられ、公園のさらなる魅力向上が大いに期待される。

なお、今回選定されなかった公園についても、今後、Park-PFI の活用に向けた調査検討を行うものとする。

※各公園の評価は、資料1を参照

事業発案に係るサウンディング調査を踏まえた各公園の民間活力(Park-PFI)導入の適性に関する評価

資料1

※グレーハッチングは、現時点で各公園の評価対象施設としないものを示しています。

公園名※1 ①供用開始(経過年数) ②現指定管理期間	現状分析			提案内容の評価										
	コンセプト () : 主な施設	公園の利用実態 指定管理者へのヒアリングによる利用形態と目的 末尾は公園利用者数(H27~31年度)(万人)	公園の課題 総合運動公園以外の公園は20年以上が経過し、施設の魅力低下やニーズの多様化に対応できていない。個別に抱える課題は以下のとおり。	コンセプトとの整合性 提案内容(収益施設)のうち不整合とした施設とその理由(不整合と評価し、評価対象施設としない)	公園利用実態との適合 ◎: 適合する ○: 可能性がある △: 可能性が低い -: 適合しないまたは現時点で配慮が必要	公園の課題への対応 ◎: 対応する ○: 可能性がある △: 可能性が低い -: 現時点で適合しない	地域との連携 地域への貢献 ◎: 期待できる ○: 可能性がある △: 可能性は低い	市場性 ◎: 5社以上 ○: 2-4社 △: 1社 ※複数提案有	総合評価※3 評価対象施設 ◎:◎が複数					
総合運動公園 (運動公園) (44ha から 71haへ拡張、再整備し R4年に全面供用開始) ①S49年4月(48年) ②R2~4年度まで (北・中央エリア)	「 県民に愛され、県民が誇れる、県民総スポーツの推進拠点 」(運動施設群) (栃木県民スポーツの殿堂であり、県民誰もがスポーツに親しむ機会を多様に創出する拠点)	利用形態	一人、友人、家族連れ	スポーツ施設利用者の利便性や満足度向上のため、飲食、休憩等の施設・サービスが必要	キャンプ場 グランピング B級グルメスタジアム※2 スポーツ施設利用・運動利用を目的とした運動公園であり、宿泊施設やグルメイベント的施設の導入は現時点でコンセプトになじまないと考える。	レストラン・カフェ	「スポーツ施設利用」が中心であり、運動利用の合間の休憩施設となり副次的に適合可能	運動目的での来園者に配慮した施設・サービスとすることで利便性向上に対応	地産地消 雇用創出	2社	○	提案事業者 4社 地元企業 2社	◎:◎が複数	
		利用目的	ウォーキング ジョギング スポーツ施設利用			アパースポーツ施設	「スポーツ施設利用」の対象施設が増えるため適合	課題対応とは直結しないが、今後の運動公園の施設の一つになりうる。	雇用創出	1社				
		71→70→68→51→58				BBQ施設	レクリエーション施設の1つとして「家族連れ」の新たな利用目的となることから適合可能	課題対応とは直結しないが、レクリエーション施設の種類であり、来園目的を創出することが可能	地産地消 雇用創出	2社				
井頭公園 (広域公園) (一万人プールは H25年に全面リニューアル) ①S49年4月(48年) ②H31~R5年度まで	「 水とのふれあい 」(プール、ボート池) 「 植物とのふれあい 」(植物園) 「 動物とのふれあい 」(花ちょう遊館) (世代を問わず、水辺・芝生や木々・四季折々の草花等、豊かな自然とのふれあい、レクリエーションを楽しめる場)	利用形態	家族連れ	アスレチック等の魅力低下やレクリエーション機能(遊具やイベント等含む)不足のため、更新時の工夫やレクリエーション機能の追加が必要 ・花ちょう遊館や植物園の魅力が低下しているため、各施設のリニューアルや周知の工夫が必要	-	グランピング	「家族連れ」の新たな利用目的となることから適合可能	レクリエーション施設の種類ではあるが、隣接施設で既に取り組みされており魅力向上の可能性が低い。	地産地消 雇用創出	1社	△	提案事業者 1社		
		利用目的	ウォーキング ジョギング			77→74→79→90→84								
中央公園 (総合公園) ①S57年10月(39年) ②H31~R10年度まで	「 水と緑と文化 」(4つの池と庭園) (美しい庭園と豊かな水辺が調和し、訪れる人が四季を通じて心地よい時間を過ごせるまちなかのオアシス)	利用形態	夫婦・カップル、家族連れ	来園者の利便性や満足度向上のため、庭園の雰囲気に沿った飲食、休憩等の施設・サービスが必要	-	レストラン・カフェ	「散策・休憩」が中心であり、休憩施設として副次的に適合可能	庭園の雰囲気に調和した施設・サービスとすることで利用者の利便性向上に対応	地産地消 雇用創出	2社	○	提案事業者 2社		
		利用目的	散策・休憩 ウォーキング ジョギング			32→36→34→32→31								
那須野が原公園 (広域公園) ①S63年7月(33年) ②H31~R5年度まで	「 緑とやすらぎ 」(せせらぎ広場、風車) 「 健康スポーツ 」(テニス、アスレチック、キャンプ場) 「 郷土と文化 」(サンタター) (那須連山を背景に豊かな自然が広がり、スポーツからレジャーまで幅広く楽しめる3つのゾーンからなる公園)	利用形態	夫婦・カップル、家族連れ	来園者の利便性や満足度向上のため、園内消費に特化した売店・サービスが必要 ・アスレチックや遊具等の魅力が低下しているため、更新時の工夫やレクリエーション機能の追加が必要 〔管理事務所協の売店が閉店(R02)〕	-	グランピング	既存のキャンプが「遊び」ととらえられることから適合可能	レクリエーション施設の種類であることや、既存のキャンプとの連携により魅力向上が可能	地産地消 雇用創出 施設連携	1社	△	提案事業者 1社		
		利用目的	ウォーキング ジョギング 遊び 散策・休憩			22→21→23→25→27								
みかも山公園 (広域公園) (青少年教育施設を整備中(PFI事業)でR6年供用開始予定) ①H7年9月(26年) ②H31~R5年度まで	「 遊びの空間 」(わんぱく広場、冒険塔) 「 花と緑に親しむ空間 」(各種植物園) (三叢山の貴重な自然・歴史環境の保全への理解を育みつつ、トレッキングや散策等、花と緑とのふれあいを満喫できる公園)	利用形態	友人 家族連れ	トレッキングや散策を楽しむ来園者の利便性や満足度向上のため、三叢山の環境に調和した飲食、休憩、情報発信等の施設・サービスが必要 〔南口広場の売店が閉店(R01)〕	-	B級グルメスタジアム※2	三叢山の自然・歴史環境を生かす公園として、現時点でコンセプトになじまないと考える。	レストラン・カフェ	トレッキング・草花鑑賞を含む「ウォーキング、散策」が中心であり、休憩施設として副次的に適合可能	三叢山の環境に調和した施設・サービスとすることで利便性向上に対応	地産地消 雇用創出	3社	◎	◎ 選定
		利用目的	散策・休憩 ウォーキング ジョギング			83→82→81→77→78								
日光だいや川公園 (広域公園) (トレーナーハウスからキャピソへR4年にリニューアル) ①H11年4月(23年) ②H31~R5年度まで	「 日光の自然と悠久の歴史・文化へのいざない 」(そよかぜ広場、だいや体験館) (清流での水遊びや多彩なスポーツ・レクリエーション、郷土文化にふれる体験活動を通じ、日光の自然・歴史を体感できる空間)	利用形態	一人 家族連れ	来園者の利便性や満足度向上のため、観光地という立地に合った飲食、休憩等の施設・サービスが必要 ・ニュースポーツやアスレチック等の魅力が低下しているため、更新時の工夫やレクリエーション機能の追加が必要	-	レストラン・カフェ	「スポーツ施設利用、遊び」等が中心であり、休憩施設として副次的に適合可能	観光地という立地を活かした施設・サービスとすることで利用者の利便性向上に対応	地産地消 雇用創出	2社	○	提案事業者 2社 地元企業 1社	◎:◎が複数	
		利用目的	ウォーキング ジョギング 遊び スポーツ施設利用 キャンプ場利用			45→46→44→47→46								
とちぎわんぱく公園 (総合公園) (ガリバーからSLへH29年にリニューアル) ①H12年9月(21年) ②H31~R5年度まで	「 創造性にあふれ、ゆめ多くたかましい子どもたち 」(こどもの城、なかよし農園) (こどもの創造性や冒険心を育む多様な遊びの空間を備えた公園)	利用形態	家族連れ	こどもや家族連れの利便性や満足度を高めるため、飲食、休憩等の施設・サービスが必要 ・こどもの城、ふしぎの船、ばなばなのまち等の遊具・展示物等の魅力が低下しているため、更新時の工夫やレクリエーション機能の追加が必要 〔こどもの城内のレストランが閉店(H30)〕	-	BBQ施設 グランピング	「家族連れ」が多く新たな「遊び」の提供につながるため適合	レクリエーション施設の種類であることからこどもを育む空間の魅力向上に対応	地産地消 雇用創出	5社	◎	◎ 選定	◎:◎が複数	
		利用目的	散策・休憩 遊び ウォーキング ジョギング			81→86→85→85→80								

※1: 鬼怒グリーンパークは民間事業者からのPark-PFIで収益事業での参入意向が得られなかった

※2: [B級グルメスタジアム] 県内のB級グルメの食べ比べ施設

※3: 総合評価は、公園の優先順位を付けるものではなく、現時点における事業提案に対する評価です。